

令和6年度 社会福祉法人岐協福祉会 事業報告

【概 要】

令和6年7月に本部施設長が新任となり、各施設長の人事異動を行い、人員体制を一新いたしました。各施設、事業所の一層の充実に努めながら、下記の3点に努力して、地域に信頼される総合福祉施設をめざし各種事業を実施いたしました。

第1に、それぞれの介護サービス事業において、入所率・利用率を高め、安定した経営を目指すことから、施設内の行事や取り組みを SNS により発信していくなど広報に努めました。

第2に、感染症対策として、引き続き基本的な感染症対策の徹底に努めてまいりましたが、新型コロナとインフルエンザの集団感染が発生し、入院者も増えたことから一時的に介護報酬の減収となりました。

第3に、職員が安心して希望をもって働くことができる職場環境とすることから、人事考課制度を改め、研修等を通じて優秀な人材の育成、確保に努力いたしました。

こうした重点事業を中心に各種事業を積極的に取り組むことにより、岐協福祉会の理念に基づき、柔軟に対応できる自律した経営と質の高いサービスが提供できるよう努めました。

【1】 法人本部事業

1 理事会等の開催

社会福祉法に準拠し、経営組織のガバナンスの強化を図るとともに、介護保険事業の経営の安定化をめざし、次のとおり、理事会・監事会・評議員会等を開催しました。

(1)理事会

第1回 令和6年6月6日(木)

- ・令和5年度社会福祉法人岐協福祉会事業報告について
- ・令和5年度社会福祉法人岐協福祉会決算報告並びに監査報告について
- ・社会福祉法人岐協福祉会諸規程の一部改正について
- ・定時評議員会の招集について

第2回 令和6年 11 月8日(金)

- ・理事長の職務執行状況について
- ・令和6年度社会福祉法人岐協福祉会資金収支補正予算について
- ・社会福祉法人岐協福祉会諸規程の一部改正について

第3回 令和7年3月26日(水)

- ・理事長の職務執行状況について
- ・令和6年度社会福祉法人岐協福祉会資金収支補正予算について
- ・令和7年度社会福祉法人岐協福祉会事業計画について
- ・令和7年度社会福祉法人岐協福祉会資金収支予算について

(2)監事会

第1回 令和6年5月28日(火)

- ・令和5年度社会福祉法人岐協福祉会事業報告について
- ・令和5年度社会福祉法人岐協福祉会決算報告について

(3) 評議員会

定時評議員会 令和6年6月24日(月)

- ・令和5年度社会福祉法人岐協福祉会事業報告について
- ・令和5年度社会福祉法人岐協福祉会決算報告並びに監査報告について

2 会議・委員会等の開催

事業の適正化と事業所間の連携強化のため、次の会議・委員会を開催しました。

(1) 事業責任者会議 毎月開催

理事長出席のもと事業実績、経営状況を確認、懸案事項の検討のため協議を行いました。

(2) 広報委員会

広報誌「ほほえみ」を作成・編集し、年2回(第83号、第84号)を発行しました。

(3) 安全衛生委員会 毎月開催

事故報告、ヒヤリハットの分析により、労働災害の事故、交通事故予防の検討を行いました。

3 介護保険事業等の経営

それぞれのサービス事業において、利用者の心身の状況に応じ、適正な個別サービスの提供に努め、さらなる生活の質の向上を図り「愛情と理解」をもって満足される質の高いサービスの提供に努めました。

介護職員への処遇改善として、「介護職員等処遇改善加算」を活用し、手当の改善など賃金の向上に努めました。

4 非常災害対策

大洞岐協苑及び第2大洞岐協苑 地域の福祉避難所役割に備え、入所者、地域からの避難者の方が3日間維持できる飲料水、非常食の備蓄をしました。

5 職員の健康管理

職員の健康の保持増進を図るとともに疾病の早期発見及びメンタルヘルスの向上に努めるため、定期健康診断 ストレスチェック等を行いました。

6 職員の育成、研修への取り組み

人事考課シートの見直しを図るとともに、施設長との定期的な面談、職員研修を毎月実施することで、職員の資質向上、公平な処遇を図りました。

(1) 苑内研修(職員が企画し講師を担当)

実施日	研修テーマ	大洞	第2	日野	包括	計
4/1、2	新人職員研修	2名	0名	0名	1名	3名
4/24	法人理念、令和6年度 事業所の目標	13名	2名	6名	2名	27名
5/29	食中毒・感染症予防とシュミレーション	18名	4名	9名	2名	33名

6/26	BCP 研修・災害シミュレーション	24 名	4 名	4 名	2 名	34 名
7/31	認知症サポーター研修	8 名	0 名	2 名	0 名	10 名
8/28	事故防止への取り組みについて	12 名	3 名	6 名	0 名	21 名
9/25	身体拘束防止、就業規則について	10 名	1 名	7 名	1 名	19 名
10/30	感染症・食中毒の蔓延防止について	12 名	1 名	6 名	1 名	20 名
11/27	BCP研修、災害シミュレーション	16 名	8 名	1 名	3 名	28 名
2/26	緊急時の対応	14 名	3 名	4 名		21 名
3/26	看取り実践報告	10 名	1 名	12 名	5 名	28 名

(2) スキルアップ研修(外部の研修機関「マイハート」より講師を派遣し実施)

実施日	研修テーマ	大洞	第2	日野	包括	計
6/13	接遇 職場を明るくするコミュニケーション	18 名	2 名	7 名		27 名
7/11	接遇 介護の基本	10 名	4 名	3 名	3 名	21 名
8/8	施設で出来る口腔ケア	8 名	6 名	7 名	3 名	24 名
9/11	ターミナルケア・看取りに向き合うには	11 名	1 名	6 名	2 名	20 名
10/10	プライバシー保護とコンプライアンス	15 名	2 名	3 名	5 名	25 名
11/14	介護保険について・サービスの本質	11 名	3 名	3 名	4 名	21 名
12/12	介護の基本	21 名		5 名	7 名	33 名
1/9	高齢者虐待と身体拘束	9 名	8 名	6 名	7 名	30 名
2/13	利用者の視点から考えるリスクマネジメント	19 名	5 名	2 名	7 名	33 名
3/13	チーム力を作る 介護者のストレスケア	11 名	3 名	5 名	4 名	23 名

(3) 資格取得支援の勉強会

介護福祉士勉強会は1月に4回開催しました。介護福祉士は6名が合格しました。

【2】 特別養護老人ホーム大洞岐協苑事業(定員100人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

【概 要】

感染予防に留意しながら「脱コロナ」の取り組みとして、季節が感じられるよう余暇活動の支援や面会時間の拡大、外出支援に努めた1年となりました。

令和5年10月に発生した重大事案への再発防止の取り組みとして、共用部分に設置されたビデオカメラを有効に活用し、事故等の原因究明と再発防止策の立案に繋げました。また、職員教育では外部研修への参加及び内部勉強会の開催に注力しました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
新規入所者数	41	54	37	20	44
退所者数	41	46	34	29	41
平均要介護度	3.80	3.54	3.88	3.85	3.9
利用率(%)	89.4	79.8	82.4	75.6	76.4

1 重点目標に対する取組み

- (1) 安定した人材確保に努め、介護力向上のための勉強会を開催することで専門知識や技術の向上を図り、利用者のQOLの維持・向上に繋がります。
 - ・介護職員からの意見をもとに、介護力向上勉強会を開催しました。特に重大事案への再発防止策として、「認知症について」と「高齢者虐待と尊厳」については介護職員全員が受講しました。
 - ・風通しの良い職場環境の一環として、職員面談を実施しました。また良好なコミュニケーションへの第一歩として、挨拶運動に取り組みました。その効果もあり、退職者は4名(介護:2名、看護:2名)と減少し、職員体制が安定しました。
- (2) 災害(地震・火災・感染症を含む)に強い施設運営を目指し、利用者の安全を守ることができるよう、危機管理対策に取り組みます。
 - ・年2回の防災訓練及び苑内研修においてBCP(事業継続計画)を周知しました。また、訓練後に開催された防災委員会では、BCPの見直しを実施しました。
 - ・感染シュミレーションおよびBCP訓練も年2回実施し、非常時の資機の保管場所の確認や発電機の起動訓練を行いました。
- (3) スムーズな入退所管理や入院者数を減らし、利用率85%を目指します。
 - ・協力医療機関との退院調整をスムーズに実施し、入院者数の減少につなげることができました。(R5: 10.9人/日 → R6: 9.1人/日)
 - ・担当職員の交代もあり利用率は目標を下回りましたが、特養・短期の担当者が、それぞれの入所管理に専念しつつも、連携を密に取り合うことで年間44名の新規入所に繋げることができました。

2 施設サービス計画の実施状況

- ・利用者及び家族の生活に対する意向の実現のため、ケアマネジャーの原案をもとにQOL(生活の質)の向上を目指した多職種によるカンファレンスを行い、ケアプランを作成、実施しました。

3 介護サービスの実施状況

- ・個別のケアプランに基づき、利用者及び家族の意向に沿ったケアに努めました。また、外出行事や外部ボランティアによる催し物も積極的に実施しました。

4 機能訓練の実施状況

- ・機能訓練指導員をはじめとする多職種が協働して利用者ごとに機能訓練計画書に基づいた機能訓練を実施しました。
- ・R6.10からは、専従の機能訓練指導員の退職もあり、個別機能訓練加算の算定は行えませんでした。看護職員が中心となり、機能訓練を提供しました。

5 食事サービスの実施状況

- ・入所者の栄養状態等を把握し、管理栄養士が中心となり多職種が連携して栄養ケア計画を作成しました。
- ・季節の食材を生かした色彩豊かな献立を作成し、適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しました。また、イベント食及びバイキング食を5回（4月・6月・7月・10月・11月）提供しました。
- ・食材料費等の高騰により令和7年2月より食費の値上げを実施しました。併せて、これまでクックサーブ（現場調理）での食事提供方式から「モアデリ」（クックチルと完全調理品を組み合わせた献立を再加熱して盛り付け）に変更しました。

6 看護サービスの実施状況

- ・7月はARI（急性呼吸器感染症）、11月は新型コロナ、1月はインフルエンザと3回のクラスター対応を行いました
- ・感染予防対策として、毎日2回の検温及び施設内の消毒・換気を行いました。また、感染拡大期においては職員を対象とした抗原検査を実施し、クラスターの早期収束に努めました。

実施日	内容	人数	備考
7/24	健康診断	56名	胸部X線など
11/27	インフルエンザ予防接種	65名	
11/27	新型コロナウイルス予防接種	55名	

7 看取り介護の実施について

看取り介護の実施はありませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議等

事業運営体制の充実と職員間の連携、更には介護の質向上を目的として、会議及び委員会活動を実施しました。

会議名	開催回数	備考
特養会議	12回	毎月
介護職員会議	12回	毎月 各フロアにて
給食委員会(第2と合同)	11回	9月は書面
介護力向上委員会	12回	毎月
入所判定委員会	12回	毎月
事故・感染防止委員会	8回	4.5.6.7.9.11.1.3月

身体拘束・虐待防止委員会	8 回	4.5.6.7.8.10.12.2 月
入所者懇談会	3 回	4 月、8 月、12 月
安全対策部門	2 回	6 月、3 月
家族会議	1 回	3 月

(2) 研修

介護職員等の資質の向上を図るため、苑内研修やスキルアップ研修へ参加しました。

・外部研修

防災研修をはじめ、感染対応研修、介護職員実務者研修、コミュニケーションスキルなど、必要な研修に計 11 名が参加しました。

(3) 勉強会

介護力の向上を図るため、勉強会を開催しました。特に R5.10 に発生した重大事案への再発防止策として「認知症について」「高齢者虐待世尊厳」は全職員が受講しました。

実施日	テーマ	参加者
5/13、5/17、6/10、6/21	認知症について	43 名
6/18	口腔衛生に関する技術的助言・指導	15 名
7/8、7/19、8/16、8/22、 9/9、9/20、10/18、10/24、	高齢者虐待と尊厳	39 名
12/17	口腔衛生に関する技術的助言・指導	9 名
2/21	排泄ケアとスキントラブル	7 名
3/10	ポジショニングの実践	8 名

9 介護相談員の受け入れ

利用者と施設の橋渡しを目的とし実施する岐阜市介護相談員派遣事業の受け入れを行いました。3 名の介護相談員が令和 6 年 7 月から毎月 2 回来苑しました。

10 岐阜市高齢者等緊急一時保護事業について

令和 6 年度は受入の依頼はありませんでした。

11 その他

(1) 非常災害対策

利用者の安全を図るため、避難救出訓練を年 2 回実施しました。また訓練後の防災委員会では BCP(事業継続計画)の見直しを行いました。

実施日	内容	参加者数
5/22	地震及び火災を想定した訓練	53 名
10/23	土砂災害等を想定した訓練	45 名

(2) ボランティア等の活動状況(敬称略)

団体・個人名	活動内容	活動日など
傾聴ボランティア	利用者への傾聴	毎月 2 回(隔週)活動活動活動

“この指とまれ！” 様		R7.3 月を以て活動終了となる
森 佳子 様	音楽療法	R6.7 月より再開し、毎月 1 回開催
臼井美枝子(協美会)様	生け花の講師	毎月 1 回開催、 R7.1 月を以て活動終了となる
西本願寺ビハーラ 様	彼岸法要の読経	9/18、3/19
あいぱち 様	パチンコ体験	6/5、6/19
清流会 様	清掃(車いす、苑庭)	12/5
小森龍二 様	サイエンスショーの講師	3/1

【3】 特別養護老人ホーム大洞岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

【概 要】

在宅介護を続ける介護者の介護負担軽減を主目的とした事業であり、利用者の要介護状態の低下防止と地域の利用ニーズに応えるために、利用者及び介護者が安心して利用できるサービスの提供に努めました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数	452	524	372	298	299
平均要介護度	3.30	3.30	3.00	3.1	2.8
利用率%	90.6	70.5	69.1	64.7	61.6

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 地域の居宅介護支援事業所や近隣の医療機関のみならず、幅広い地域の居宅支援事業所等へ継続的な空所情報を行い、安定した利用者を各保持することで利用率 80%を目指します。

- ・居宅介護支援事業所等へ空所情報を発信し、新規利用者は56名ありました。
- ・併設する特養での感染症の発生およびスタッフ不足の影響もあり、受け入れを調整することもあり、年間 61.6%の利用率となりました。

- (2) 自宅等から感染症の持ち込みリスクが高い事業であることから、慎重な入退所管理と体調管理を行い感染症予防に努めます。

- ・入所前ヒアリングにて健康チェックを実施し、体調に不安のある方の利用については調整または慎重な受け入れをするなど、感染症の持ち込み防止に努めました。入所後にも1日2回の検温を行い、体調変化の早期発見に努めました。

- (3) 利用者及び家族の生活に対する意向を尊重し、住み慣れた地域で在宅生活を継続できるような支援や、在宅生活が不安な方の長期利用の受入れまたは緊急利用への対応など、多種多様な個々のニーズに合わせた生活支援を行います。

- ・病院から自宅に戻ることが困難で施設入所を前提とした長期(ロングショート)の利用希望が多くあり対応しました。特養入所まで安心して待機し、長期利用から併設特養へ入所した方は15名でした。

- ・緊急利用の受け入れを13件行い、個々のニーズに合わせた支援を行いました。

2 介護サービスの実施状況

- ・各担当ケアマネジャーのケアプランに沿って利用者個々のニーズに合わせた介護サービスを提供しました。

3 機能訓練の実施状況

利用者の状況やADLに合わせて、生活動線での歩行訓練や生活動作での手足の可動を生活リハビリとして実施しました。

4 食事サービスの実施状況

併設の特別養護老人ホームと同じ献立やイベント食を提供しました。

5 健康管理について

- ・利用中には1日2回の検温を行い、体調不良時は早めに家族や主治医と連携を図り、適切に医療に繋がりました。
- ・介護者の状況に応じて、事業所で受診相談及び対応を行い、早期の医療連携により安心して利用できるよう努めました。

6 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るために併設の特別養護老人ホームと協同し委員会活動を実施しました。

[4] 老人デイサービスセンター大洞岐協苑事業(定員30名)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100792

[概要]

要介護状態等にある高齢者等に対し、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・食事・個別の機能訓練・レクリエーションの提供を柱として、必要な日常生活上の生活相談及び介護サービスを行いました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数(介護)	646	524	495	501	502
利用者数(支援)	204	194	199	161	131
1日平均利用者数	22.3	20.6	20.0	19.7	17.6

1 重点目標への取り組み

- (1) 新規利用者獲得のため、リハビリ・余暇活動等の充実を図るとともに、居宅支援事業所へ当デイサービスの強み・魅力を発信し、登録者80名、利用率80%を目指します。
 - ・体験利用の際に、希望に対し可能な限り対応できるよう努め、他の利用者との交流を促進するなど、充実した1日となるよう努めました。
 - ・年間の体験利用者数は26名(介護:21名、総合:5名)あり、そのうち21名と契約することができました。
 - ・利用者一人一人の身体状況にあった個別機能訓練計画を立案し、計画に基づいたリハビリの提供に努めました。
- (2) 生活意欲・身体機能を高めるサービスを提供するため、職員個々の介護力・対応力・応用力向上に努めます。
 - ・職員間の情報共有(朝のミーティング、ケース記録)を充実させ、利用者一人一人に迅速に対応できるよう努めました。
- (3)「職員個々の介護力・先を見据えた判断力・応用力向上に努め、デイサービス全体の質の向上に努めます。」
 - ・デイサービス会議において事例検討会を導入するなど、個別への対応に注力しました。

2 通所介護事業(介護保険事業)の実施状況

- ・居宅介護支援事業所ならびに地域包括支援センターとの連携のもと、定員の充足を図るよう努めました。
- ・身体機能低下に伴い、介助内容の変更・回数の調整等を行い、ご利用者様が快適に過ごせるよう努めました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業(通所介護相当サービス事業)の実施状況

- ・介護予防サービス・支援計画に沿った個別援助計画を作成し、適切なサービスを通所介護事業と同等の内容で提供しました。

4 基準緩和型デイサービス事業(事業対象者及び要支援を対象)

通所介護相当サービス事業の指定基準を緩和した(2時間を基準)事業ですが、事業への相談はなく実績はありませんでした。

5 会議等の開催状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

会議名	開催回数	備考
デイサービス会議	12回	

6 その他

- ・非常災害対策
火災、地震等の非常災害に備え、併設する特別養護老人ホームと合同による避難訓練を年2回実施しました。

実施日	内容	参加者数	備考
5/22	地震及び火災を想定した訓練	27 名	夜間想定
10/23	地震及び火災を想定した訓練	23 名	

【5】大洞岐協苑訪問介護事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170101139号

【概 要】

要介護状態等となった高齢者が、住み慣れたまちでいつまでも暮らし続けるため、サービス提供責任者が作成する計画書に基づき、ヘルパーが自宅等へ訪問し、身体介護や生活援助等生活全般にわたる援助を実施しました。

利用状況実績(過去5年分)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数(介護)	478	471	432	416	382
利用者数(支援)	518	524	517	469	428
1日平均利用者数	20.3	19.5	19.6	17.9	17.4

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携を強化し、訪問の変更・追加に柔軟に対応し新規利用者の増加に努めます。
 - ・常勤職員のケガによる離脱期間もあり、新規受け入れ相談に対応できない期間もありましたが、新規契約(介護・総合)は31件と前年を大きく上回りました。
- (2) ヘルパー技術向上のため定期的に研修を実施し、より質の高いサービスを提供します。
 - ・高齢者の身体的特徴と観察の視点、熱中症や感染症への対応など、年5回の研修を実施し対応力の向上に取り組みました。
- (3) 基準緩和型訪問介護サービスの利用者の開拓、活動時間の増加に努め利用者88名を目指します。
 - ・基準緩和型訪問サービスの希望の相談はありませんでした。また、新たな登録ヘルパーの応募はなかったこと、現任登録ヘルパーの高齢化もあり、事業の拡大は行えませんでした。

2 訪問介護事業(介護保険事業)の実施状況

- ・居宅介護支援事業所の介護サービス計画に基づき、自立支援の視点を大切に援助しました。利用者の状況変化に合わせて、曜日の変更等柔軟な対応を行いました。
- ・年間を通じて新規契約は16件ありました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業(訪問介護相当サービス事業)の実施状況

- ・地域包括支援センターや居宅支援事業所の介護予防サービス支援計画書に基づき自立支援に努めました。
- ・年間を通じて新規契約は15件ありました。

4 基準緩和型訪問介護サービス事業の実施状況

利用者やケアマネジャーより、数件問い合わせがありましたが、サービスの実施には至りませんでした。

5 有償サービスの状況

介護保険サービスでは対応ができない病院付添いなどの要望について、年間27件実施しました。

6 会議等の開催状況

(1) ヘルパー会議 年12回

運転免許証の確認、新規利用者情報の共有、変更事項、感染症予防について、困難事例検討、相談等、その他連絡事項などを周知し、間違いや事故防止に努めました。

(2) 研修

訪問介護員及び登録ヘルパーの資質の向上のため、年間計画に基づいて5回の研修を計画し実施しました。

実施日	研修テーマ	参加者数
4/16	信頼される事業所づくり	8名
5/14	介護保険でできる訪問介護	6名
7/16	暑い夏に気をつけたいこと 熱中症、調理について	6名
9/17	介護技術 腰を痛めない	6名
11/12	感染症について	7名

その他、法人内で実施する苑内研修及びスキルアップ研修や勉強会に参加しました。

【6】在宅介護支援センター大洞岐協苑事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100123号

【概要】

要介護等の認定を受けた高齢者等が住み慣れた地域で生活するために、利用者の希望や家族の意向を踏まえた居宅サービス計画を作成し、適切な介護サービスの提供が図れるよう努めました。

令和6年9月には常勤ケアマネジャーの急な退職があり、その影響も大きくプラン数(介護)は前年を下回る結果となりました。

利用状況実績(過去5年分)

項目	R2	R3	R4	R5	R6
プラン数(介護)	1,104	1,084	1,141	1,053	931
プラン数(予防)	231	212	547	474	522
月あたり件数	111.3	108.0	140.4	127.3	133.8

1 重点目標に対する取り組み

(1) 地域共生社会に向けて、多種多様なニーズに対応できるよう地域包括支援セン

ターをはじめとする多職種との連携・協働を行います。特にターミナル期を自宅で過ごされる方が増えたため、病院や訪問看護等との連携を密にし、利用率前年比118%をめざします。

- ・地域包括支援センターや他の居宅介護支援事業所と連携し、地域の会議等にも参加しました。
- ・常勤職員の退職もあり、新規受け入れ要請に対応できない期間もあったため、ケアプラン(介護)数は前年を下回りました。

(2) 常に利用者の自立支援を考え、公正中立立場に立った質の高いケアマネジメントを提供できるように自己研鑽し、各々が支援者としてのスキルアップに努めます。

- ・岐阜県介護支援専門員連絡協議会等の主催する研修会に積極的に参加しました。また、研修での学びを事業所内にフィードバックし、ケアマネジャーのスキルアップに努めました。

(3) 事業所内での情報共有を行い、利用者のニーズに迅速に対応できるようチーム力を高めていきます。

- ・利用者の情報や留意事項の共有を目的とした居宅会議を毎週開催し、担当者が不在の場合でも事業所全体で対応できる体制を構築しました。

2 居宅介護支援事業(介護保険事業)の実施状況

- ・利用者及びその家族の希望を踏まえた居宅サービス計画の作成に努めました。
- ・ケアプラン件数は、月当たり77.5件でした。また、新規契約は年間51件ありました。

3 介護予防支援事業(地域包括支援センターからの受託事業)の状況

地域包括支援センターから新規の委託依頼が17件ありました。

4 介護認定調査(岐阜市及びその他の市町村からの受託事業)の実施状況

介護保険の更新認定及び区分変更に必要な訪問調査を受託し、訪問調査後すみやかに調査票を作成しました。認定調査に専従していたパート職員がR5.11に退職し、調査員の資格をもつ職員が2名となったこと、調査員資格を取得した常勤職員がR6.9に退職したことにより、調査への対応が困難な状況となったため、年間92件の実績となりました。

5 介護支援専門員実務研修実習生の受け入れについて

令和6年度は、介護支援専門員実務研修見学受講者1名を受け入れました。

6 地域とのかかわりについて

- ・地域で行われる「いきいきサロン」等に定期的に参加し相談を受け付けました。また要請に応じ、ハンドベルの演奏を行いました。

実施日	訪問先	活動内容
6/4	ほっとカフェ JA 芥見	ハンドベルの演奏
7/5	特別養護老人ホーム大洞岐協苑	ハンドベルの演奏(七夕会)
8/21	認知症家族の会の集い	ハンドベルの演奏

9/9	第2大洞岐協苑	ハンドベルの演奏(敬老会)
12/12	桐ヶ丘サロン	ハンドベルの演奏／寸劇
12/19	グループホーム大洞岐協苑	ハンドベルの演奏(クリスマス会)
1/24	紅葉が丘サロン	ハンドベルの演奏／寸劇

7 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議を開催しました。

- (1) 居宅会議 週1回 利用者の情報や留意事項の共有及び困難ケースについて
- (2) 内部研修 2回

実施日	研修テーマ	参加者
11/25	「ひまわりの会」報告(訪問看護・薬局との意見交換会)	4名
1/24	セルフネグレクト事例への対応と支援について	4名

その他、法人内で実施する苑内研修及びスキルアップ研修や勉強会に参加しました。

【7】グループホーム大洞岐協苑事業(定員9人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170102483号

【概要】

認知症の状態にある要介護者に対し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排泄、食事、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者がその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう援助しました。

利用率は、10月に発生したコロナによる長期入院も影響し、89.9%(R5:96.9%)と前年度を大きく下回りました。

利用状況実績(過去5年分)

項目	R2	R3	R4	R5	R6
新規入所者数	2	5	4	1	2
退所者数	3	4	4	1	2
平均要介護度	2.50	2.44	2.5	2.22	2.77
利用率(%)	94.8	92.3	96.6	96.9	89.9

1 重点目標に対する取組み

- (1)「利用者の主体性を活かし個別ケアの充実を図ります。」

・利用者の要望をお聞きし、また日々の様子から、状態に合わせたケアや個別計画を立て生活支援に努めました。

- (2)「共同生活が維持できるよう、支援していきます。」

・より家庭に近い感覚で居心地よく共同生活が出来るよう、利用者同士の交流を多く取り入れながら、役割と居場所作りを行いました。

- (3)「感染予防対策に努め、家族 主治医との連携を密にして利用者の健康維持を図り

ます。」

- ・基本的な感染防止対策の徹底を継続しましたが、初めてコロナ感染が起きました。
- ・受診時には病院・入所者家族に体調変化などを書面で報告し、主治医から直接今後の対応についての返信を頂き、病状の変化への対応や細やかなケアに繋がりました。

2 介護計画の作成とサービスの提供について

個々の入所者の達成感や残存機能の維持をはかれる介護計画の作成に努めました。また、日常生活の充実の為、レクリエーションを日替わりで行い、軽作業などの日課を通して入所者それぞれの個性・得意な事を活かせる機会をつくりました。

3 家族とのかかわりについて

- ・月次報告書を発行し書面にて毎月報告を行いました。
- ・体調変化やコロナウイルス流行下の状況など、LINEや電話で細目に連絡し、信頼関係の構築に努めました。

4 地域との交流について

- ・地域に求められる事業運営のため、年6回2か月ごとに運営推進会議を開催しました。
- ・ホットカフェには1回のみの参加となりましたが地域住民との交流を図りました。地域に求められる事業運営に努めました。

5 外部評価の実施状況

令和7年1月に認定評価機関である「株式会社 中部評価センター」による外部評価を受けました。本来、秋に予定していましたがコロナ対応の為延期となりました。

6 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

会議名	開催回数	備考
ケアハウス・グループホーム 合同会議	12回	10月と1月はコロナ発生の 為書面会議
運営推進会議	6回	

7 その他

- ・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年3回の避難訓練を計画・実施しました。

実施日	内容	参加者数	備考
5/22	地震による火災及び水害を想定	11名	
10/23	地震による火災及び水害を想定	11名	

【8】 ケアハウス大洞岐協苑事業(定員20人)

【概要】

身体機能の低下等が認められ、又は高齢のため独立して生活するには不安が認められる

高齢者等に対し、栄養バランスのとれた食事の提供、生活相談の充実、大浴場等施設環境の整備など安心して生活を送ることが出来る住環境を整えました。

特に感染予防対策に注力し、入居者の体調確認を徹底し、外出自粛や家族・友人との面会及び食事を共にする機会への参加自粛について呼びかけましたが、初めてコロナウイルスによる感染拡大が発生しました。

利用状況実績(過去5年分)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
新規入所者数	6	4	4	6	4
退所者数	6	4	5	7	4
入居率(%)	97.5	98.3	97.9	89.9	94.0

1 重点目標に対する取り組み

(1)「自立を支え、安心した生活を継続出来るよう関係機関との連携を深めます。」

- ・毎月開催する入居者懇談会にて、栄養士やケアマネジャー等から、健康に暮らすためのヒントや介護保険の利用について専門的な話を聞く機会を設けました。
- ・入居者の担当ケアマネジャーと連絡を密にとり、情報の共有を行いました。

(2)「利用者同士の交流の場を作り楽しいシニアライフを提供します。」

- ・入居者懇談会にて意見交換の場を設けました。
- ・各階の談話コーナー、2階の談話室の環境整備を行い、季節感のある過ごしやすい空間を提供しました。

2 サービスの提供について

- ・入居者、家族からの相談事に関しては親身に対応し、困難な案件は他部所や他事業所の協力を得て、解決に努めました。

3 生活の援助について

- ・緊急時及び一時的に必要な場合の適切な支援を行いました。

4 会議等の実施状況

会議名	開催回数	備考
入居者懇談会	12回	毎月1回開催(1月のみ書面会議)

入居者同士の交流の場及び施設との意見交換の場として懇談会を開催しました。

5 その他

- ・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年2回の避難訓練を計画・実施しました。

実施日	内容	参加者数	備考
5/22	地震による火災及び水害を想定	18名	
10/23	地震による火災及び水害を想定	13名	

【9】 地域密着型特別養護老人ホーム第2大洞岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190104253号

【概 要】

入居者一人ひとりの意向を尊重し、心身ともに穏やかな生活を送ることができるよう、個別ケアの提供に努めました。また、引き続き新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策を徹底し、安全・安心な生活環境の維持に取り組みました。

しかしながら、9 月には新型コロナウイルスクラスターが発生し、入居者及び職員(法人からの応援職員を含む)計 27 名が感染する事態となりました。この影響もあり、年間を通じた入院者は延べ 28 名、入院日数は 889 日と、前年度の約 1.5 倍に増加しました。

また、令和 6 年度は新規入居者 12 名、長期入院等による退所者が 16 名となり、新規入所者の確保が十分に行えなかったことから、空床が目立つ結果となりました。年間平均利用率は 79.1%と、目標としていた 95%には届かず、厳しい運営状況となりました。

利用状況実績(過去4年間)

項 目	R3	R4	R5	R6
新規入居者数	35	8	3	12
退所者数	8	7	7	16
平均要介護度	3.67	3.64	3.75	3.57
利用率(%)	76.3	93.1	89.1	79.1

1 重点目標に対する取り組み

- (1)「一人ひとりの暮らしの継続を大切に、個別ケアの提供と余暇活動の充実に努めます。」

入居者の生活意向を尊重し、ケア内容を見直しながら個別支援に取り組みました。特にコロナの影響が落ち着いた秋以降は、外出行事や手作りおやつ提供、地域の方やご家族との交流イベントなど、“開かれた施設”を目指して積極的に活動を展開しました。

- (2)「多様な介護ニーズに柔軟に対応し、施設全体のケアの標準化を図ります。」

毎月のケースカンファレンスや情報共有を通じて入居者のニーズに迅速に対応できる体制を整備し、申し送りノートでケアの統一と標準化を図るとともに、加算体制の整備を進め、「協力医療機関連携加算」「退去時情報提供加算」(令和 6 年 4 月～)や「生産性向上推進体制加算」(令和 7 年 2 月～)の算定を開始しました。

- (3)「感染予防対策と健康管理の徹底により、年間利用率 95%を達成します。」

日々の健康チェックや職員の出勤前検温、体調不良時の出勤ストップなど、感染

症対策を徹底して実施しましたが、コロナクラスターの発生により入居者4名が入院するなどの影響があり、利用率の目標達成には至りませんでした。

2 施設サービス計画について

- ・入居者自身が「どのように暮らしたいか」の意向をもとに、多職種での話し合いにより個別のケアプランを作成・更新しました。
- ・カンファレンスは年間12回開催し、延べ72名分のプラン作成・見直しを行いました。

3 介護サービスの実施状況

個別のケアプランに基づき、入居者の能力に応じた支援を提供し、感染対策を講じながら、季節にちなんだ行事や余暇活動も積極的に実施しました。

4 機能訓練の実施状況

多職種の連携により、健康状態と運動能力を把握した上で個別機能訓練計画を作成し、継続的に訓練を実施しました。

5 食事サービスの実施状況

管理栄養士を中心に栄養ケア計画を作成し、バランスの取れた献立を提供しました。令和6年1月からは食事提供をクックチル方式に切り替え、イベント食(5回)や手作りおやつ(9回)など、食の楽しみの充実にも注力しました。

6 健康管理の実施状況

入居者の既往歴や現疾患の把握に努め、主治医との密な連携のもと適切な医療処置を提供しました。11月にはコロナウイルスおよびインフルエンザワクチンの接種も実施しました。

7 看取り介護体制の確立について

看取り介護についての研修会に4名が参加し看取り介護について学び進めましたが、令和6年度中に「看取り介護指針」の整備は至りませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議

- ・事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議を開催しました。

会議・委員会	回数	備考
ユニットリーダー会議	12回	毎月
安全対策部門会議	2回	10月・3月
給食委員会(大洞と合同)	11回	9月は書面
事故防止委員会	6回	偶数月
感染症予防委員会	6回	
身体拘束防止委員会	5回	5・7・9・12・3月
虐待防止委員会	5回	

防災委員会	1 回	2月
-------	-----	----

(2) 研修の開催

- ・介護職員等の資質の向上を図るため、必要な研修に参加しました。
- ・外部研修に9名を派遣しました。
 - ユニットケア管理者研修 1名
 - ユニットリーダー実地研修 1名
 - 介護支援専門員更新研修 1名
 - 介護職が知っておきたい医学知識 3名
 - 嚥下障害をおいしく予防 3名

9 運営推進会議の開催状況

地域に開かれた施設としてサービスの質を確保することを目的とした運営推進会議を6回（2カ月に1回）開催しました。

10 介護相談員の受け入れ

利用者と施設の橋渡しを目的とし実施する岐阜市介護相談員派遣事業の受け入れを行いました。2名の介護相談員が令和6年7月から毎月2回来苑しました。

11 岐阜市高齢者等緊急一時保護について

岐阜市が実施する事業を受託し、受け入れ体制を確保しましたが、相談実績及び受け入れ実績はありませんでした。

12 地域交流カフェの開催状況

感染対策のため地域交流カフェは開催できませんでしたが、代わりに地域の方やご家族との交流イベントを実施しました。

13 その他

(1) 非常災害対策について

入所者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。また、BCP(事業継続計画)の整備に努めました。

実施日	訓練想定	参加者(うち職員)
7/5	夜間、地震・火災	37名(13名)
12/4	昼間、土砂・火災	36名(12名)

(2) ボランティア等の受入れ

団体・個人名(敬称略)	活動内容	備考
ハーラウ ワレア ホアヘレ	アロハ!フラライブ	フラダンスイベント
アンサンブル、ブーレ	クリスマスコンサート	弦楽奏
中部学院大学短期大学部 ハンドベルクワイア	クリスマスコンサート	ハンドベルの演奏
マジシャンロイム	マジックショー	

(3) 地域交流室ポローニアの利用状況

4 団体より、延べ 13 回の利用がありました。

【10】 岐阜市地域包括支援センター東部事業

【概 要】

地域の高齢者が、住み慣れた街で安心して生活が送れるよう、地域・医療・福祉をつなぐ相談窓口として多機関と連携し、さまざまな相談に応じてまいりました。

多問題を抱えた相談が多くなり、多職種とのネットワークを図りながら地域包括ケアシステムの構築に向けて、様々な機関と連携し地域課題への取り組みを行いました。

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 「困難事例など、事例の振り返りや情報共有を積極的に行い、地域包括全体で対応できるようチームワーク力を高めていきます。」
 - ・多問題を抱えた相談に3職種で情報を共有し、支援困難ケースについて協議を重ね、地域課題抽出および支援内容の検討を行いました。
- (2) 「時代のニーズに合わせたオンライン方式などを取り入れ、地域や関係機関との途切れない関係づくりに努めます。」
 - ・ほっとメイト会やフレイル予防専門職の協力を得て、地域の課題に取り組みました。特にフレイル予防専門職会議は3公民館をオンラインで繋ぐことで、参加者が身近な公民館に集うことが出来、一度に多くの方に参加してもらうことができました。
- (3) 「高齢者のQOL(生活の質)向上と適切なケアマネジメント支援を目的に、重度化防止・自立支援型の地域ケア会議を行います。」
 - ・介護支援専門員や介護、障がいのサービス事業所からの相談を受け、個別支援を行い多職種で連携し個別課題の解決を図りました。
 - ・圏域内の介護支援専門員からの事例提供により地域ケア会議を行い、栄養面へのアセスメント不足に知識を深めるなど新たな気づきを得ることができました。

2 包括的支援事業等の実施状況

- (1) 地域包括支援センターの活動をより多くの方に知ってもらうための広報誌「のんびり通信」を年6回発行し、地域包括支援センター業務の紹介、認知症への取り組み、消費者被害の注意喚起、おいしく食べよう教室などについての情報を掲載しました。
- (2) 芥見東地域の3世代交流センター「みどりっこハウス」において、第1・3週の水曜日に福祉総合相談の窓口を開設し、介護保険サービスへの利用につなげました。
- (3) 各地域のふれあいきいきサロン16会場からの要請を受け、地域包括支援センターの周知活動をするのと同時に、認知症予防や消費者被害などの講話をして介護予防に努めました。
- (4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務において、地域の介護支援専門員への介護予防・自立支援の認識を深め、互いに協力し支え合う体制づくりのため、居宅連絡会

を開催しました。また、地域ケア個別会議を実施することで地域課題を整理・分析し、解決に向けた取り組みを行いました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業対象者の把握事業について

生活機能の低下がみられる高齢者に対して、岐阜市が主催する教室への参加を促し、ケアプランを作成、介護予防に努めました。また、要支援認定者や事業対象者においては、介護予防ケアマネジメント事業として自立に向けたケアプランの作成と委託ケアプランの確認を行いました。

おいしく食べよう教室	まめかな訪問事業	運動機能向上事業	認知症予防事業
8 件	1 件	0 件	0 件

4 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築について

フレイル予防の専門職会議を年6回開催(ハイブリッド式)し、専門職間の連携を図りながら、フレイル予防教室の実施・検討などを行い、次年度の取り組みの課題を見出しました。また、フレイル予防のチラシを年3回発行し、地域住民に周知しました。さらにフレイル予防教室を7月と11月と2月に開催し、3つの公民館(芥見・芥見東・岩)をオンラインでつなぎ、多くの参加を得ることができました。

ほっとメイト会の活動としてほっとカフェを5回、介護者家族の集いを6回実施しました。

認知症サポーター養成講座は小中学校向けと地域向けに計3回実施し、さらに受講者に対しステップアップ研修を実施して支援者としての活動を支援しました。

5 地域ケア会議の実施状況

関係機関や介護支援専門員、民生委員・児童委員、地域住民からの支援困難ケースを多職種で検討し、認知症に対する地域理解と見守り体制や介護者への家族支援などを目的とした地域ケア個別会議を行いました。

また、関係機関とのネットワーク構築に向けた地域ケア会議を2回行いました。

6 指定介護予防支援事業(介護保険指定 岐阜市指定第2100100185号)の実施状況

東部地域に事業所のある居宅支援事業所をはじめ、その他の地域にある居宅支援事業所と業務委託契約を締結し、予防ケアプラン業務を委託しています。委託事業所とは連携を密にし、利用者の自立につながる介護予防ケアプランの作成や居宅介護支援専門員の支援に努めました。

利用状況実績(過去5年)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
総プラン数	4,591	4,734	4,905	5,139	5,771
プラン数(包括)	2,301	2,594	2,133	1,697	1,614
プラン数(委託)	2,290	2,140	2,772	3,442	4,157
委託事業所数(延べ)	290	302	323	343	362

7 岐阜市日常生活圏域協議体設置事業の実施状況

地域団体の代表者、介護、福祉関係者とともに、一人暮らし高齢者を見守る仕組みとして「支え合い活動」についての検討会に年4回参加しました。

【11】 岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター事業

【概 要】

岐阜市内の中ブロックに属する地域包括支援センター中央北・中央西・白梅華・島城西・清流・長森・長森南・東部の8か所(以下、「センター」という。)において、各センターの機能を強化すべく後方支援をはじめ、総合調整や助言を行いました。また、必要な人が必要な支援につながるできるよう、地域ケア会議を充実させ、地域の関係団体等とのネットワーク構築につなげるなど、センターの活動を支援しました。

1 重点目標に対する取り組み

- (1)「各包括がチームオレンジの活動を進めるため、企業を含む他の社会資源との連携や幅広い世代の住民の力を活かす等、地域全体で取り組んでいけるように一緒に検討していきます。」
 - ・地域活動に協力したいという企業と連携し、認知症サポーターとともに活動の輪を広げ、チームオレンジへと展開できるよう包括の後方支援をしました。
 - ・チームオレンジの情報交換やすでに活動しているチームオレンジのフォローについて検討できるよう認知症地域支援推進員連絡会を企画し開催しました。
- (2)「中ブロック管理者会を年 3 回以上行い、各包括の取組状況の確認や課題を共有し、業務の標準化、業務推進に向けた連携を促進していきます。」
 - ・「中ブロック管理者会」を4回開催し、各センターの現状や課題を出し合いながら、管理者同士が相談できる関係づくりと情報共有の場を設けました。
 - ・他ブロックの機能強化型ともセンターの活動を共有し、懸案事項について確認し、必要に応じて岐阜市と検討しました。
 - ・センター職員として必要な知識や対応方法が学べるよう研修会を企画し開催しました。
- (3)「自立支援重度化防止の地域ケア会議が継続的かつ効果的なものとして定着できるよう支援していきます。さらに、日頃の相談業務や地域ケア会議で蓄積された地域課題を整理できるように支援していきます。」
 - ・自立支援重度化防止の地域ケア会議を重ねることで見えてきた課題について、地域づくりへと展開できるよう包括と検討しました。
 - ・地域ケア会議から抽出された地域課題を包括と一緒に考え、包括が作成する地域ケア会議記録や議事録でも確認をし、包括が整理できるよう助言しました。

2 困難事例に対する支援について

- ・相談対応、情報提供、ケース会議や地域ケア個別会議への参加及びアドバイスをを行いました。

- ・多機関とのネットワーク構築を目的とした福祉相談窓口連携会議に参加しました(年12回)。

- ・対応力向上を目的とした地域包括支援センター職員研修を開催しました(年5回)。

3 地域ケア会議開催に向けた支援について

- ・地域ケア会議の打ち合わせへ参加し、目的の確認や参加者の選定、当日までの準備について支援しました。

- ・地域ケア会議から抽出された地域課題の把握及び課題を整理しました。

4 認知症サポーターステップアップ研修に対する支援について

- ・センターと協働し、認知症サポーターステップアップ研修を開催しました(年1回)。

- ・受講者がチームオレンジや認知症カフェへの活動につながるよう支援をしました。

5 認知症施策推進のための支援について

- ・情報交換、共有の場として中ブロック認知症地域支援推進員連絡会を開催しました(年4回)。

- ・認知症初期集中支援チームとの意見交換やチームオレンジの活動を共有するための会議を企画、開催しました(年3回)。

- ・認知症サポーター養成講座新テキストに即した教材の作成、企業向け認知症サポーター養成講座の実施アプローチ(中ブロックの取り組み)。

6 広報及び周知啓発に対する支援について

- ・広報紙を確認し、加筆・修正等助言しました。

- ・ブロック内で広報紙の情報共有や周知活動の共有をしました。

7 各専門職への人材育成に関する支援について

専門職会議の開催を支援しました。

会議名	参加回数
主任ケアマネ会	6 回
社会福祉士会	6 回
看護師・保健師会	4 回

8 地域包括ケアシステムの構築、推進に関する支援について

連携向上のための会議を開催しました。

会議名	開催回数
岐阜市高齢福祉課との打ち合わせ会	13 回
中・北・南ブロック機能強化型地域包括支援センター連絡会	10 回
中ブロック連絡会(管理者会)	4 回

【12】介護付有料老人ホーム日野岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190100186号

【概要】

コロナウイルス感染症が5類へと移行し、外出行事や、集団で楽しめる余暇活動が増えてきました。面会の数も増え、家族には普段の生活や身体状況を伝え、安心してもらえるように努めました。

平均年齢が91.5歳と高齢化し看取り介護を希望する利用者が増えました。看取りで退居する方が増える一方、入居の希望者が少なく利用率が85.2%と過去5年間で一番低い利用率となりました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
新規入所者数	8	7	17	8	9
退所者数	8	12	12	10	13
平均要介護度	3.22	3.30	3.10	2.90	2.90
利用率%	92.6	90.6	86.9	92.1	85.2

1 重点目標に対する取組み

(1)「満床の状態を保つことができるよう、入居希望者や居宅事業所と連携を深めます。」

- ・入居希望者が少ないため、施設情報サイト「みんなの介護」を取り入れ、幅広く入居申し込みに繋がるように努めました。
- ・入所後も、空床があれば居室の移動も対応し、生活環境の希望も取り入れてきました。

(2)「感染症の再発防止に努め、継続して看取り介護を丁寧に行います。」

- ・年間を通じて職員は体温チェックや手洗いを徹底しウイルスの持ち込み防止に努めました。
- ・令和6年度、当苑で看取り介護を行った方は9名でした。施設で最期を希望される家族が増えています。家族が看取りに不安がないように、身体的変化を説明した冊子を作りました。

(3)「職員の職場定着率の向上のため、職員とのコミュニケーションを密にします。」

- ・介護リーダーをはじめ職員全体で仲間の様子を気にしながら声を掛け合っています。状況に応じて面談も行いました。

2 介護サービスの実施状況

施設サービス計画に基づき適切なサービスの提供を、ケアチェック表を用いて行いました。

3 機能訓練の実施状況

入所者の健康状態及び運動能力を把握し、機能及び健康の維持増進のため、多職種が連携して個別機能訓練計画を作成し、機能訓練を実施しました。

4 食事サービスの実施状況

季節の食材を生かした色彩豊かな献立を作成し、適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しています。また、イベント食は7回行っています。

5 看取り介護の実施状況

入所者及びご家族等の意向を尊重したケアを実施しています。また本人が安らげる生活の場を提供し、不安のないように説明を丁寧に行ってきました。令和6年度は9名の方を看取りました。

6 健康管理の実施状況

日頃より体調の変化に留意し、主治医との連携を密に必要な医療処置、病気の予防など健康管理に努めました。

入所者の感染予防対策として、新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンの予防接種を実施しました。

7 空床の短期利用について

有料老人ホームの短期利用への相談はありませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議及び委員会

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議と委員会を開催しました。

会議名	開催回数	備考
職員会議	12回	毎月最終水曜日
給食委員会	12回	毎月第一木曜日
リーダー会議	12回	毎月第四金曜日
行事委員会	12回	毎月第一火曜日
介護力向上委員会	12回	毎月第二火曜日
事故、感染、拘束委員会	12回	毎月第三火曜日
運営推進会議	6回	奇数月
入居者懇談会	2回	5月・11月

(2) 研修

職員の資質の向上を図るため、法人内の事業所と共同して苑内研修及びスキルアップ研修を計画し参加しました。

9 その他

(1) 非常災害対策

入所者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。また、BCP(事業継続計画)の整備に努めました。

実施日	内容	参加者数	備考
6/24	地震・火災・日中想定	16名	
11/27	火災・夜間想定	14名	消防立会い

(2) ボランティア活動来苑者(順不同・敬称略)

団体・個人名	活動内容	備考
臼井先生	絵遊び、モノ作り	入居者の知人の方

あいばち	パチンコを使ったリハビリ	
FC ぎふキャラバン	スタッフによる体操や運動	

【13】 日野岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170105074号

【概 要】

多様なニーズに対応するため家族及び居宅介護支援事業所と連携を深めてきました。

体調変化に応じて病院受診の搬送や、情報提供書など家族が不安なく対応が出来るように努めてきました。

感染予防対策については入所前日に利用者の他、同居する家族の体調も確認し感染症の持ち込み防止に努めました。

利用状況実績(過去5年間)

項 目	R2	R3	R4	R5	R6
利用者数	511	463	510	519	449
平均要介護度	2.68	3.10	3.10	3.00	3.4
利用率%	88.3	81.8	83.1	75.7	77.2

1 重点目標に対する取組み

(1)「ケアを熟知した職員を多く育成し、人員の安定化を図ります。」

・ケース記録や、個別対応記録など情報共有し、利用者の特徴を把握し介助が出来るように努めました。

(2)「年間平均利用率 88 パーセントを目指します。」

・パート職員の退職があり、見守りしやすい2階の居室に固執してしまい1階の居室の利用が出来ず利用率が77.2%と目標が達成できませんでした。

2 介護サービスの実施状況

- ・個別の居宅サービス計画に基づき適切なサービスの提供に努めました。
- ・状況に応じて緊急時の受入れにも対応しました。

3 機能訓練の実施状況

生活リハビリとして短距離歩行の付き添いや苑外を散歩する機会を増やしました。

4 食事サービスの実施状況

併設の有料老人ホームと同じ献立やイベント食を楽しみました。

5 健康管理について

感染予防対策に取り組み、入所前の検温や体調確認の徹底に努めました。必要に応じてケアマネジャー、主治医又は嘱託医との連携を図り、健康管理に注力しました。

6 生活相談について

生活相談員をはじめ職員が日常生活に関する事等の相談に対応し、生活課題の解決に努めました。

7 送迎サービスについて

岐阜市以外の地域からの利用や希望に沿った送迎時間を可能な限り対応しました。

8 余暇支援サービスについて

年間を通して併設の有料老人ホームと共同し行事やサークルに参加しました。短期入所フロア独自の活動も実施しました。

9 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図る為に併設の有料老人ホームと共同し委員会活動を実施しました。